

2 月 6 日(土)、7 日(日)上演

出演：咲妃みゆ×山路和弘×中山翔貴 演出：杉原邦生

時代を超えて問いかける傑作会話劇『スカイライト Skylight』が神戸へ！

神戸文化ホールは 2027 年 2 月に、ローレンス・オリヴィエ賞受賞作 KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース公演『スカイライト Skylight』を上演します。杉原邦生の演出のもと、咲妃みゆ、山路和弘、中山翔貴の 3 名が、愛情と価値観、生き方の違いが交差する濃密な人間ドラマを描き出します。



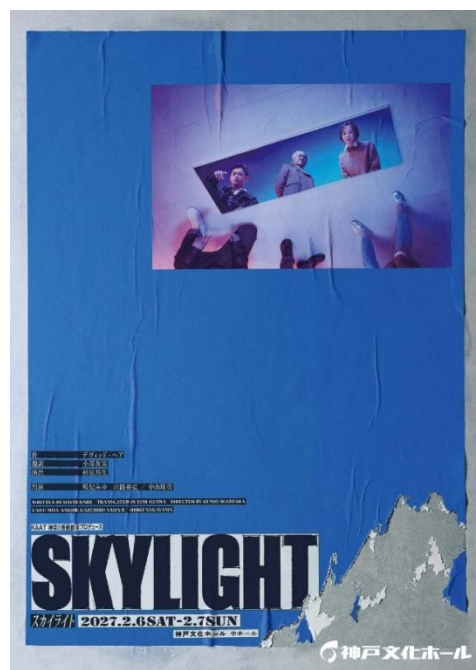
■時代を超えてもなお評価されている名作

本作は、イギリスを代表する劇作家 デヴィッド・ヘアによる、かつて愛し合った男女とその息子 3 人だけの会話劇です。1995 年にロンドンの国立劇場で初演されると絶賛を博し、ローレンス・オリヴィエ賞を受賞。翌年、ウェストエンドやブロードウェイにも進出。2015 年にはトニー賞リバイバル作品賞を受賞するなど、時代を超えて評価されている作品です。当時のイギリスの社会情勢を背景に、登場人物たちの複雑な関係性や感情の機微、駆け引きを通して、様々な価値観や生き方が浮かび上がり、今なお観る者に問いかける普遍的な人間ドラマです。

■演出 杉原邦生×多彩な 3 名の俳優陣が織り成す、濃密な人間模様

本作の演出は、演劇のみならず歌舞伎やオペラ、テーマパークでの演出も手掛けるなど多方面で活躍する**杉原邦生**。変動する社会や多様な人間性を描く本作に、時代を捉える感性を持つ杉原が挑みます。ロンドン北西部に住む教師であり、この物語の中心となるキーラを演じるのは、元宝塚歌劇団雪組トップ娘役で、退団後も数多くの舞台作品で主演を務め、様々な演出家からのオファーが絶えない**咲妃みゆ**。キーラとかつて関係を持っていた事業家・トムを演じるのは、舞台俳優としてキャリアをスタートし、舞台・映像作品のみならず声優として幅広く活躍をする**山路和弘**。確かな演技力を持つ咲妃と山路の共演にご期待ください。トムの息子・エドワードを演じるのは、デビュー以降テレビ、映画、CM と活躍がめざましい**中山翔貴**。キャリアも様々な 3 名の俳優が、濃密な人間模様を紡ぎます。

翻訳は小澤英実が担当。上演時間約 10 時間におよんだ KAAT・KUNIO



共同製作 KUNIO15『グリークス』で翻訳を務めるなど、杉原から厚い信頼を寄せられる小澤と再びタッグを組みます。スタッフには、舞台美術家コンペで選出された原良輔が舞台美術を手掛けるほか、これまで杉原作品を支えてきた多彩なスタッフ陣が集結しました。

会話の余白から心情を想像し、自身と他者を見つめ直すきっかけを生み出す濃密な会話劇に、ご期待ください。

■あらすじ

ロンドン北西部で質素な暮らしをしながら教師をしているキーラ（咲妃みゆ）。ある日突然、かつて彼女が働いていたレストランのオーナーの息子・エドワード（中山翔貴）が、キーラの住むアパートを訪れる。一年前に亡くなった母・アリスについて語り、アリスの死から立ち直れない父・トム（山路和弘）を助けてほしいと訴える。エドワードが帰った後、同じ夜にトムもまた図らずもキーラのもとを訪れる。二人は、互いの現在の生活や、かつてレストランで共に働いていた日々について語り合い、離れていた約三年の空白を埋めようとする。しかし、二人はかつて不倫関係にあり、キーラは罪悪感からトムたちの前から姿を消していた。会話が進むにつれ、二人の生い立ちや生活環境、価値観の違いが次第に浮き彫りになっていく。そして、夜が明ける前、いまだに互いに惹かれ合う二人の関係に、一つの決着がつく――。

■演出家・出演者コメント

（杉原邦生）

『スカイライト』という傑作戯曲が、僕にまた新たな可能性の扉を開いてくれようとしている――そんな期待感とともにほのかな畏怖を感じています。

初めて戯曲を読んだとき「これは困った」と思いました。この作品は登場人物が三人のみ。舞台は一場面だけで、時空の飛躍もなく、リアルな会話によって進んでいく。これまで手がけたどの作品よりもシンプルな構造に、自分の方法論が通用しないように感じられたのです。

ですが同時に、空間へのアプローチにまだ見ぬ可能性が秘められていると、この戯曲が語りかけてくるようにも感じました。そこで、以前から構想していた舞台美術家コンペティションを開催し、新たに出会う才能とともに空間を思考するところから始めることにしました。「困った」と思ったそのときにはすでに、この作品の演出を断るという選択肢はなかったのです。

咲妃みゆさん、山路和弘さんという確かな実力と魅力を兼ね備えたお二人、フレッシュで独特の存在感を持つ中山翔貴さん、そして、厚い信頼を寄せるスタッフの皆さんとともに、新たな『スカイライト』をお届けします。どうぞご期待ください！

（咲妃みゆ）

『スカイライト』に出逢った時、稲妻が走ったと申しましょうか…初めて体感する衝撃が全身を駆け巡ったことを鮮明に覚えています。気づけばその衝撃は「この戯曲に挑戦したい」という高き目標へと変動していました。挑戦の機会に恵まれた今、その有り難さを強く感じております。いつかご一緒できたらと願っていた杉原邦生さん、尊敬する山路和弘さん、初共演が楽しみな中山翔貴さん。皆さんと手を携えて演劇を楽しみたいです。

(山路和弘)

ずーっと昔の若い頃の話。「お前は修羅場が好きなのか！」よく友人に言われた。
男女は、特に若い頃は、別れは突然やって来る。穏やかに事が進む時もある。
なのにチョットした、たった一言で修羅場になってしまう。人の心が解らないのか女心に鈍感なのか…
でもその時一瞬で空気が変わる。どんなに思い合っている。
チクチクと心を針で刺される様な稽古場かも知れない。自虐の悪魔が誘って来る。

(中山翔貴)

今回の出演が決まった時は不安もありましたが、演出の杉原さんから「自分の持っているものを生かしてほしい」と言っていただき、この作品に懸ける思いがより一層強くなりました。
エドワードは物語を進める大きな役割を担う存在です。
舞台経験は浅いですが、咲妃さんや山路さんの背中を追いかけながら、誠実に向き合い、そして全力で作品に飛び込んでいきます。
三人で紡ぐ濃密な会話劇を、ぜひ劇場で体感してください。

■公演概要

公演名：KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『スカイライト Skylight』

公演日程：2027 年 2 月 6 日(土)14:00 ★ 7 日(日)14:00 ※開場は各開演の 30 分前予定

★……アフタートークあり 杉原邦生(演出)×咲妃みゆ・山路和弘・中山翔貴(出演)

※登壇者は変更になる場合もございます。

作：デヴィッド・ヘア

翻訳：小澤英実

演出：杉原邦生

出演：咲妃みゆ 山路和弘 / 中山翔貴

美術：原良輔 照明：吉本有輝子 音響：稲住祐平 衣裳：Antos Rafal ヘアメイク：国府田圭

舞台監督：藤田有紀彦 演出助手：矢本翼子

宣伝美術：立花和政 (デザイン太陽と雲)

宣伝写真：神ノ川智早 宣伝衣裳：杉浦優 宣伝ヘアメイク：伏屋陽子 (ESPER)

主催：神戸文化ホール (指定管理者：(公財)神戸市民文化振興財団)

企画制作：KAAT 神奈川芸術劇場

チケット情報：

S 席 ¥6,500 A 席 ¥5,000 ※神戸割各 500 円引き

U25(25 歳以下・S 席) ¥3,500 U18(18 歳以下・S 席) 無料

※全席指定・税込

情報公開日：2026 年 10 月 9 日

PRESS RELEASE プレスリリース



※未就学児の入場はご遠慮ください。

※神戸割、U18 チケットは神戸文化ホールプレイガイドおよび
神戸文化ホールオンラインチケットサービスで取扱い。

チケット発売：

会員先行：2026 年 10 月 23 日（金） 一般発売：2026 年 10 月 30 日（金）

【お問い合わせ】

神戸文化ホールプレイガイド 078-351-3349（10:00-17:00 / 月曜定休 ※祝日の場合は翌平日が休業）

【チケットに関するお問い合わせ】

サンライズプロモーション 0570-00-3337（12:00-15:00 ※平日）

【プレイガイド】

神戸文化ホールプレイガイド 078-351-3349

神戸文化ホールオンラインチケット <https://kobe-bunka.tstar.jp/>

チケットぴあ <https://t.pia.jp/>（P コード：545-190）

ローソンチケット <https://l-tike.com/>（L コード：53985）

イープラス <https://eplus.jp/>

アソビュー！ <https://www.asoview.com/>

■スタッフ・キャスト プロフィール

<作家プロフィール>

デヴィッド・ヘア（David HARE）

劇作家、脚本家、映画監督。1947 年イギリス・サセックス州生まれ。イギリスを代表する現代劇作家の一人。ケンブリッジ大学を卒業後、ポータブル・シアター・カンパニー、ジョイント・ストック・カンパニーの立ち上げに参加。ロイヤル・コート・シアターのレジデント作家やナショナル・シアターのアソシエイトディレクターも務める。英国アカデミー賞、ニューヨーク演劇批評家協会賞、ベルリン国際映画祭金熊賞、オリヴィエ賞、ロンドン演劇批評家賞など、舞台・映画において数々の賞を受賞している。主な執筆戯曲に、『プラウダ』、『レイシング・デイモン』、『スラッグ』、『スカイライト』など。

<演出家プロフィール>



杉原邦生（すぎはら・くにお）

1982 年東京都生まれ、神奈川県茅ヶ崎市育ち。演出家、舞台美術家。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）映像・舞台芸術学科卒、同大学院 芸術研究科 修士課程修了。2004 年にプロデュース公演カンパニー・KUNIO を立ち上げ、これまでに『エンジェルス・イン・アメリカ』、『グリークス』、太田省吾『更地』などを上演。木ノ下歌舞伎には 2006 年から 2017 年まで企画員として参加し、『黒塚』、『東海道四谷怪談一通し上演一』、『勸進帳』などを演出。そのほか、近年の主な演出作に COCOON PRODUCTION 2022 / NINAGAWA MEMORIAL 『パンドラの鐘』、ホリプロ『血の婚礼』、KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『SHELL』、PARCO PRODUCE 2024 『東京輪舞』、東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎『三人吉三廓初買』、『モンスター』、コクーン アクターズ スタジオ第 1 期生発表公演『アンサンブルデイズー彼らにも名前はあるー』、2025 年度全国共同制作オペラ『愛の妙薬』、サンリオピューロランド 35 周年記念の新作パレード『The Quest of Wonders Parade』、『黒百合』など。2018 年度第 36 回京都府文化賞奨励賞受賞。

<出演者プロフィール>



咲妃みゆ（さきひ・みゆ）／キーラ役

宮崎県出身。2010 年に宝塚歌劇団へ入団、14 年に雪組トップ娘役に就任。17 年の退団後は舞台、映像で活躍。

第 46 回菊田一夫演劇賞受賞。第 31 回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。

主な作品に舞台『Yerma イエルマ』、『少女都市からの呼び声』、『千と千尋の神隠し』、ミュージカル『レッドブック〜私は私を語るひと〜』、『クワイエットルームにようこそ The Musical』、『ケイン&アベル』、『グラウンドホッグ・デー』、『カム フロム アウェイ』、『マチルダ』、ドラマ『波うららかに、めおと日和』、映画『やがて海になる』などがある。



山路和弘（やまじ・かずひろ）／トム役

三重県出身。1979 年に劇団青年座に入団。多数の舞台、テレビドラマ、映画その他で俳優、声優として多彩に活躍。2011 年に菊田一夫演劇賞 演劇賞、18 年に毎日芸術賞（演劇・演芸・邦舞部門）、21 年に声優アワード 外国映画・ドラマ賞を受賞。

近年の主な出演舞台は『江戸怪奇譚〜ムカサリ〜』（17 年／演出:金澤菜乃英）、ミュージカル『メリー・ポピンズ』（18 年・22 年／演出:リチャード・エア）、『リーディングシアター「キオスク」』（19 年／演出:石丸さち子）、ミュージカル『ジャージー・ボーイズ』（20 年・21 年／演出:藤田俊太郎）、『キオスク』（21 年・25 年／演出:石丸さち子）、ミュージカル『ゴヤ-GOYA-』（21 年／演出:鈴木裕美）、『インヘリタンスー』

継承 一』（24 年／演出:熊林弘高）、『諸国を遍歴する二人の騎士の物語』（24 年／演出:金澤菜乃英）他。NHK

連続テレビ小説、NHK 大河ドラマなどテレビドラマ、原田真人監督作をはじめ多くの映画に出演。吹き替え、アニメ、ゲーム、ナレーションも多数出



中山翔貴（なかやま・しょうき）／エドワード役

1999 年 3 月 18 日生まれ、東京都出身。2022 年俳優デビュー。

主な出演作品に、舞台『クレイジーレイン』（25）、映画「教場 Reunion／Requiem」（26）、映画『沈黙の艦隊』（23）、ドラマ『コントラスト』（FOD・26）、『恋愛バトルロブワイヤル』（Netflix・24）、連続テレビ小説『おむすび』（NHK・24）、日曜劇場『下剋上球児』（TBS・23）、『しろめし修行僧』（テレビ東京・22）など。

直近では、プレミアムドラマ『勿忘草の咲く町で～安曇野診療記～』（NHK BS）に出演する。

【関連企画】

戯曲講座 ～作劇の基本と、もっと面白くするためのコツ～

まだ書いたことがない、もっと書いてみたい。そんな小さな種を芽吹かせてみませんか？

演出家、劇作家の筒井潤さんを講師に迎え、「戯曲講座」を開催します。

名作戯曲『スカイライト Skylight』の上演の前に、“戯曲を書く”ことを実践から学ぶ2日間。

第一回 2027 年 1 月 24 日(日) 13:00～16:00

新開地アートひろば 3F 会議室 1（神戸市兵庫区新開地 5 丁目 3-14）

第二回 2027 年 2 月 14 日(日) 13:00～16:00

神戸文化ホール 多目的室（神戸市中央区楠町 4 丁目 2-2）

[お申込み]

[WEB 申込みフォーム](#)よりお申込みください。[受付開始：2026 年 10 月 30 日(金)10:00]

<横浜公演>

2027 年 1 月 20 日（水）～31 日（日） KAAT 神奈川芸術劇場（大スタジオ）

主催・企画制作：KAAT 神奈川芸術劇場

【本件に関するお問い合わせ】

神戸文化ホール（指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団）

広報担当：前田聡子 <satoko_maeda@kobe-bunka.jp> / 安福優佳 <yuuka_yasufuku@kobe-bunka.jp>

TEL: 078-351-3397 / FAX: 078-351-3121